



## スワミジからの贈り物



Maki Jungheim

### \* “Teach by being” – 存在で教える

今回、スワミ ヨーガスワルパナンダジは言葉を使わないで、実に多くのことを教えてくださいました。来日中、スワミジは私に1回たりとも「ああしなさい。こうしなさい。」とは言われませんでした。しかし、まさに、存在で、態度を通して“Teach by being”でさまざまなことを教えてくださいましたのです。

言葉を交わしていないのにわかるのですから、お互いがテレパシーを使っているのではないかと思う瞬間がありました。おりしも、スワミジの来日前に小山さんが訳されたグルデブの著書“ヨーガと空の科学”を読んでいましたので、それにもなるほどと納得するばかりでした。

### \* 事実と、それについて良し悪しなどの評価することについて

ある日、スワミジが何事に対しても、良し悪しの評価をなさらないことに気がつきました。スワミジの最後の講話の会でした。主催の先生がグルデブの著書をお買いになった方にはスワミジがサインをしてくださると言われました。当然のように感激なされた皆さんが長い列を作りました。120名の会ですから、とても長い列になってしまい、待っていた私や訳者の小山さんは大変なことになったなあと、心配になりました。その時は時間がとても長く感じられ、スワミジがお気の毒に思っていました。最後のおひとりまでのサインを終えたスワミジは「手が痛くなったよ」とおっしゃいました。しかし、日本での最後の会を皆さんの大感動で終わられ、スワミジは晴れ晴れとしたお顔でした。その後、新幹線で高崎に向かうスワミジに、車内で飲めるようにお好みのカフェオレを私が買いました。スワミジは嬉しそうに今日はお砂糖を入れて飲むと言われ、ありがとうとおっしゃいました。いつもは砂糖なしですから、今日はちょっと自分へのご褒美なのかしらと私は思いました。

翌日、私は朝から嬉しく温かい気持ちになりました。スワミジが早速、昨日の主催の先生にお礼のメールを出され、そのコピーが私にも送られていたのです。そこには、「グルデブのご本にサインをさせていただけて、とても光栄でした。感謝しています。」と書かれていたのです。

スワミジの手が痛くなったことは事実です。しかし、どんなに光栄に思っていたかという気持ちは別物なのです。

そういえば、スワミジが何度か「誰々さんは何とかだよ」とおっしゃったときに、私は聞いてはならないことを聞いてしまったような気がして、ちょっとひっかかっていました。しかし、それは“事実は事実である”ことだけで、スワミジはそれに対しての良し悪しの評価を全くされていないのです。例えばスワミジは日本では言葉がわかりません。しかし、いろいろなできごとをよく見て

いらして、事実はわかっていらっしゃるのです。しかし、それだけです。評価については、何も考えていらっしゃらないようでした。

私はスワミジが「賢者は考えない」と聖典に書いてありますよ」とおっしゃっていたことを思い出しました。なるほど、考えることは相当なエネルギーの浪費なのです。

さらに、「この世には善悪すらもないんだよ」とアシュラムでカティキヤンジが呟かれたときの深い意味が、実際には今になってよくわかった気がしました。

自分の尺度で良し悪しをつけたり、判断しなければ、自分の心が勝手に早読みしたりしなければ、ただ、それだけのことなのです。

同じものを見ても好き嫌いがありません。同じ体験をしても怒り出す人もいれば、嬉しくなる人もいます。

それを不幸だと悲観しても、努力目標が増えたとやる気を出してもいいのです。

聖典が教えるように、同じことをどう受け取ってもいいのです。私たちはそれを選択できるのです。私がホームページにも載せていることの通りです。

心がきれいになって、ものごとをありのままにとらえることができるようになれば、きっとあれこれと考え疲れる原因がなくなり、いつもエネルギーに満ちて、幸せでいられるということを、私は確信させてもらいました。

ヨーガと空の科学を読んでみてください。それに書かれていることを行動に移すようになります。

### \* 今の瞬間に生きれば冴えること

また、スワミジの人間味に溢れるところや、過ぎたできごとや未来をいつも考えているのではなく、今の瞬間を輝くように生きていらっしゃることを私は自分の目でみました。

瞬間を大切に生きていらっしゃる。だから最良の行為ができるのでしょう。

ついにお見送りの日、強い雨が降りました。成田空港に高崎から高速バスで到着なさったスワミジは太陽のように輝いていました。高崎からお供の菅野先生やスタッフのけいこちゃんやたけし君もニコニコで、ぱ〜っと明るく輝いた一団が現れたようでした。

スワミジが私の顔を見るや否や、「出がけに、何か甘い物がほしくてトフィー(toffee)と言ったんだけど、コーヒーが出てきたんだよ」とお茶目に笑われました。それには私もふき出してしまいました。

私たちのリトリートの終わり頃にのど飴を差し上げたときに、気に入られた様子だったので、ちょうど私は、次の香港リトリートのために、のど飴を1袋持ってきていました。「スワミジ、この飴を持って行ってください」と差し出すと、“Very good. Open it.”と言われるのです。袋を開けた私からのど飴を受け取られたスワミジは、見送りに来た全員に最後のプラサードとしてその飴をひとつ残らずお配りになったのです。

スワミジのためにクッキーを焼いてきた麻紀ちゃんが小さな袋を差し出すと、嬉しそうに受け取られ、最初の1かけらをすっと口に入れ、にっこりとされました。そしてすぐさま残りを皆に配り終わられたのです。どちらもご自分の分は残さずに最後のプラサードとして皆に分けてしまわれたのです。

とても自然で、愛に溢れるしぐさでした。

スワミジは、堂々とした体格なのに、偉そうでなく、透明で暖かいヴァイブレーションでいっぱいです。堂々と見えるのは、とても穏やかで、安定したものに満ちているからだと思います。明るく、透明と感ずるのはサツワグナの特徴がはっきり現れているからなのだと思います。

### \* 大きな愛

成田でスワミジを見送った私たちは皆、感慨深い気持ちで余韻を味わったことと思います。そして、翌朝、またしてもスワミジからのメールが来ました。無事に香港についてことや、日本滞在中は皆にいい笑顔で親切に接してもらえたこと、グルデブの教えを熱心に聴いていただけ、ありがたく思っているとのこと、そして、最後に、“arigatogozaimasita. MATANE !”とありました。責任の重い立場でお忙しい74歳のスワミジが、どうやってこんなにせつせとメールや電話をかけてくださる手間や時間を作れるのだろうか、本当に頭が下がるばかりです。

誰もが「グルデブほど謙虚で、親切で、愛と思いやりに満ちた行為をなさる人を見たことがない」と言われるそうです。きっとこんな感じだったのではないかしらと、何度もそう思う瞬間がありました。私は、本当に今回、あらゆるときにスワミジの中にグルデブを見させていただきました。これほど説得力のある教え方は他にはないと思いました。

### \* 真のバクティ

また、今回は自分の中のバクティというものを強く体験することになりました。バクティとは頑張る行くものではなく、止めることができないほどに内側から溢れ出てきてしまうものなのだと私は実感しました。スワミジに何かを頼まれると、それをすること全てが楽しくなってきて、幸せがどんどん広がっていくように感じるのです。感じるのですから、止めることができません。わくわくはするものの、か〜っと興奮したりするのではなく、とてもすっきりとクリアで、周りがよく見えているのです。結果には執着しませんから、それをすることだけで嬉しくやさしい気持ちになるのです。ですから、落ち着くのです。きっと、これが真のバクティの気持ちなのだろうと私は思いました。

スワミジとすごした私は、自分の役割を淡々に行えばいい、私はいつも守られていて、とても幸せだと何度も何度も思いました。おかげで、大いなるものの存在を近くに感じることができました。

この世界で私たちがする(do)ことには限りがあり、全てのものごとは大いなるもののご意志で起こる(happen)のです。本当に、全ては大いなるものの中にあるのですね。

理解していたはずのことに深い確信を持たせていただき、私にはそれがスワミジからの贈り物と思えるのです。このプレゼントに感謝でいっぱいです。心からありがとう！

Om Shanti      マキ ユングハイム

